



令和7年11月4日 <11月号>

〒929-0325

石川県河北郡津幡町字加賀爪又6番地1

TEL 076-289-2213

FAX 076-288-5535



「秋から冬へ 学びを深める季節に」

—落ち着いて学習に取り組む「猛勉強の月」

校長 池島 隆久

日が短くなり、朝晩の冷え込みも増しました。季節の変わり目は、生活や学習の在り方を見つめ直す良い機会です。10月に続き、この11月も「猛勉強の月」、「目標に向かう月」。ここから一か月は、学びにじっくり取り組む大切な時期です。

自分の学びをつくる 一計画と継続の力

学習面では、期末テストに向けて計画的に家庭学習を進めましょう。どの時間にどの教科に取り組むのか、何を使って勉強するのか。これまでのテストの振り返りでは、「早めの取りかかり」「集中できる時間の確保」「教科に合わせた学習方法」「質問と復習の習慣化」「苦手への粘り強さ」など、多くの生徒が良い改善策を挙げていました。皆さんは、すでに“答え”を知っています。あとは、自分に合った方法で工夫すること、自分で計画を立て、調整しながら実践し、継続することです。



生活を見直し、リズムを整える

日が短くなるこの季節は、生活リズムが乱れやすく、就寝時刻が遅くなりがちです。スマホの使いすぎにも注意しましょう。

行事や部活動を通して仲間との関係が深まる一方で、トラブルも起こりやすくなります。「思いやり」を忘れず、落ち着いた学校生活を送りましょう。一親しき仲にも礼儀あり。

不安とどう向き合うか—思いやりで支える学校生活

3年生にとっては、進路に向き合う大切な時期です。「結果が出ない」と焦ることもあるでしょう。しかし、違う結果を求めるなら、これまでの行動を少し変えてみることも効果的です。学習方法、時間の使い方、生活習慣—改善の方法はいくつもあります。

不安を感じるのは本気で頑張っている証です。つらいときは一人で抱え込まず、周囲に相談してください。支え合える仲間が存在が、受験を乗り越える一番の力になります。

校長として、皆さんの真剣な努力と成長を、心から応援しています。

一緒に考え続けよう いじめのない学校へ (今月の全校集会では、「いじめ」について考えました)

「いじめはしてはいけない」「どんな理由があっても許されない」—誰もがわかっているのに、なぜなくなるのか。だからこそ、私たちはこれからも、機会あるごとに一緒に考え続けていくことが大切です。

以前、いじめを受けた生徒のお母さんから、こんな話を聞きました。

「いじめをした方は、やめたらそれで終わりだと思っているんです。」

でも違うんですよ。いじめられた子は元には戻れないんです。」

そう言って、お母さんは紙をぐしゃぐしゃにし、続けました。

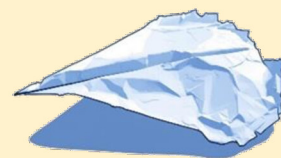
「これを伸ばしてみてください。きれいに戻りますか？ これが、いじめられた子どもの心です。」

これで飛行機を作ってみてください。きれいな紙で作った飛行機と同じように飛びますか？

いじめを経験した子は、元には戻れないし、うまく飛べなくなることもあるんです。」

いじめは、どんな理由があっても決して許されません。「軽いからいじめではない」という考え方も間違いです。いじめとは、「誰かの行為で嫌な思いをしている人がいる」ということです。

どんなときも、言葉と行動に思いやりをもって、互いを大切にできる学校をつくっていきましょう。



本校校歌を作曲された小泉しげ様が、10月27日にご逝去されました。戦後の混乱期である昭和23年に作られたこの校歌には、「明るい学校になってほしい」という願いが込められていると伺っています。心よりご冥福をお祈り申し上げますとともに、これからも私たちの大切な校歌を歌い継いでまいります。

